

一般社団法人日本調理科学会 2024年度第1回理事会議事録

日 時：令和 6年 4月 28日（日）13：30～15：30

場 所：オンライン開催

出席者：綾部園子会長，新井映子筆頭副会長，真部真里子副会長，平尾和子副会長，佐藤靖子，高澤まき子，藤井恵子，阿久澤さゆり，杉山久仁子，柳沢幸江，久保加織，北尾悟，坂本薫，杉山寿美，岡本洋子，秋永優子，田原美和，長嶺清司，三神彩子，三宅裕子，宮藤章（以上理事21名） 飯田文子，高村仁知（以上監事2名）

欠席者：小西史子，和泉秀彦，中澤弥子（以上理事3名）

本日の理事会は，定款第33条理事の過半数の出席（理事24名中出席21名，欠席3名）を満たし成立。

【配付資料】

資料1：一般社団法人日本調理科学会 2023年度第3回理事会議事録(案)

資料2：災害時のメニュー開発に関する研究委員会運営委員会の活動報告

資料3：特別研究「多様な調理法と家庭料理の伝承」研究委員会報告

資料4：旧次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理研究委員会活動報告

資料5：一般社団法人日本調理科学会 2024-2025年度役員候補者および代議員名簿

資料6：2023年度事業報告

資料7：2023年度収支決算（貸借対照表）

資料8：2023年度収支決算（正味財産増減計算書）

資料9：監査報告書

資料10：2024年度日本調理科学会学会賞受賞候補者案

資料11：2023年度支部事業報告

資料12：2023年度支部決算報告

資料13：2024年度支部事業計画(案)

資料14：2024年度支部予算(案)

資料15：一般社団法人日本調理科学会 2024年度代議員総会時における講演会の報告

資料16：一般社団法人日本調理科学会 2024年度大会予算

資料17：一般社団法人日本調理科学会 2024年度大会のご案内

回収資料：新入会員申込者

1. 議長，議事録作成人，署名人選出

綾部会長より開会にあたり，今回の会議は代議員総会に諮る2023年度事業報告及び収支決算報告を審議することが主であること，現メンバーでの会は今回が最後になること等のお言葉があった。

議長は綾部会長，議事録作成人は高澤庶務担当理事，議事録署名人は綾部会長，新井筆頭副会長，飯田監事，高村監事とする。

2. 前回議事録確認

2023年度第3回理事会議事録(案)（資料1）を確認し，了承した。

3. 議事

【報告事項】

(1) 業務執行理事からの業務執行状況に関する報告の件

綾部会長より，前回理事会以降の会長の職務を執行してきたとの報告があり，新井筆頭副会長は庶務・編集担当として，真部副会長は情報管理担当として，平尾副会長は主に企画・広報担当として，会長を補佐し職務を執行してきたとの報告があった。

(2) 常置委員会からの報告の件

1) 編集委員会

新井筆頭副会長より，資料6に基づき，論文審査状況について報告があった。過去3年の投稿数をみるとコロナ禍の影響により減少していたが2023年度は38編まで回復したことが報告された。

2) 情報管理委員会

真部副会長より、資料6の①に関する現状報告があった。4月2日より学会HPを暗号化したが、会員情報変更届や入会届等各種届書式がダウンロードできない等の支障をきたした。現在はすでに回復しているが、何か不便なところがあれば事務局にご連絡をいただきたいとの説明があった。

(3) 特別委員会からの報告の件

1) 刊行委員会

綾部会長より、クッカーサイエンスシリーズの状況について報告があった。峯木真知子先生、小泉昌子先生、設楽弘之先生共著による「おいしいたまごのはなし」が4月15日に刊行された。

2) 規程委員会

報告事項はなし。

(4) 研究委員会からの報告の件

1) 災害時のメニュー開発に関する研究委員会

平尾副会長より、資料2に基づき、災害時のメニュー開発に関する研究委員会委員を対象とした「炊き出し活動現場からの緊急報告会」を3月12日に開催したこと、ボランティア募集では中村学園大学の教員や学生、学会内外の先生方620名に快く対応していただいたこと、募金総額320万円ほどであったこと、多大なるご協力をいただいた関係大学に学会長名でお礼状を送付したことの報告があった。また6月2日(日)学会講演会後に「災害時のメニュー開発に関する研究委員会会議」を実施すること、2024年度年次大会9月6日(金)にNPO法人キャンパーによるデモ調理の開催(別紙1:学会大会HP掲載参照)、併せて研究委員会活動報告も開催することについての報告があった。さらに鎌倉市では「かまくらプラごみゼロ宣言」の取り組みが行われており、年次大会で使用する食器等についてはこの方式に則っていくこととなるとの報告があった。

2) 特別研究「多様な調理法と家庭料理の伝承」研究委員会

綾部会長より、資料3に基づき、進捗状況等の報告があった。調査チームでは、各支部から報告書が提出されたこと、全国調査結果を「全国の学生を対象とした家庭料理の調理法と調理機器・器具の使用実態調査」としてまとめ、日本調理科学会誌第57巻2号に掲載されたこと、支部で追加調査を行う場合はそれぞれに研究倫理委員会を受けた後実施する、年次大会でポスター発表16件予定であることの報告があった。また実験チームでは支部ごとに研究テーマを検討し着手していること、年次大会でポスター発表21件予定であることの報告があった。

協議事項が1件あげられているので後ほど審議をお願いしたい。

3) 旧次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理研究委員会

平尾副会長より、資料4に基づき、4件の報告があった。次世代に伝え継ぐ家庭料理の総まとめ報告書PDFは2024年4月中に学会HPの「家庭料理研究委員会活動報告」で公開できるようになる。今後委員会活動報告部分の修正が必要となった場合は軽微であれば更新可能である。近畿支部では支部HPの充実化を図ることが決定しており、支部HPから学会HPや農文協HPにアクセスを可能にしてほしいとの申し出があり了承した。報告書の販売について、先日購入希望者がありすでに事務局に対応してもらった。なお、学会発表収録のCDについては大会発表者のみへの販売となる。学会誌クッキングルーム掲載が開始され、県の元委員から英語表記について質問があったので委員会で検討しその表記を共有することとなった。

(5) 選挙管理委員会からの報告

資料5に基づき、次期役員候補として、会長 真部真里子氏、筆頭副会長 阿久澤さゆり氏、副会長 高村仁知氏、藤井恵子氏、各支部の理事20名、監事 新井映子氏、平尾和子氏が選出され、代議員総会に諮ることが報告された。

【審議事項】

(1) 新入会員承認の件

新井筆頭副会長より、回収資料に基づき、2024年1月16日～4月26日の新入会員(正会員22名、学生会員9名)について説明があり、確認の上承認された。

(2) 2023年度事業報告承認の件

資料6に基づき、2023年度事業報告が提案され、審議を行った。庶務関係は新井筆頭副会長から、会員数の状況、代議員総会の開催、2023年度大会について、また研究奨励及び研究業績等の表彰、会議の開催について説明がなされた。

(一社)日本調理科学会創立60周年記念事業「調理科学の百科事典」の刊行に向けた準備状況については、綾部会長から説明がなされた。

企画・広報関係では、平尾副会長から、年次大会、講演会、研究会企画を中心とした活動を行ったことの報告があった。

常置委員会関係では、編集委員会の「日本調理科学会誌」論文状況をみると2023年度は前年度に比較し却下論文数が減少し、掲載論文数が増えている傾向にあるとの報告があった。

情報管理委員会関連については真部副会長から、資料6に基づき、4件の報告があった。また、綾部会長からは渉外関係として日本学術会議協力学術団体として生活科学系コンソーシアムの活動を行ったこと、関連学協会等と事業の共催、協賛、情報交換を行ったことの報告があった。

研究委員会関係は、平尾副会長から災害時のメニュー開発に関する研究委員会活動および旧次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理研究委員会の活動は、先(報告事項)の通りであることの説明がなされた。特別研究「多様な調理法と家庭料理の伝承」研究委員会は綾部会長から、年次大会において33演題のポスター発表されたこと、調査運営委員会を開催し学会誌の掲載が決定したことの報告があった。

特別委員会関係の刊行委員会は創立40周年記念事業であるクッカーサイエンスシリーズの刊行について、また50周年記念出版委員会は農文協の「ルーラル電子図書館」に掲載できなかった約380品等の公開作業がほぼ終了したことの報告があった。

(3) 2023年度貸借対照表承認の件

真部副会長より、資料7に基づき、2024年3月31日現在の貸借対照表について説明がなされた。

(4) 正味財産増減計算書承認の件

真部副会長より、資料8に基づき、正味財産増減計算書について説明がなされた。当年度は学会誌掲載論文が増加したこと、2022年度は科研費が採択され例年より収入が多かったこと、多様な調理法と家庭料理の伝承研究委員会にかかる費用、会計ソフトバージョンアップによること等により、正味財産期末残高は昨年度より約100万円の減額となっているが、活動に支障が出るほどではないので収支バランスに注意しながら進めていきたいとの説明があった。

(5) 監査報告

高村監事より、資料9に基づき、事業報告書及びその附属明細書は適正に処理されている旨の監査報告がなされた。

以上(2)から(5)、2023年度事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書、監査報告について承認され、かつ代議員総会に提案することが満場一致で承認された。

(6) 2024年度学会賞受賞候補者承認の件

新井筆頭副会長により、資料10に基づき、学会賞受賞候補者1名〔澤田崇子氏(関西福祉科学大学)〕、奨励賞受賞候補者1名〔松浦朋子氏(女子栄養大学)〕、功労賞受賞候補者6名〔菅原悦子氏(東北・北海道支部、元岩手大学)、峯木真知子氏(関東支部、東京家政大学大学院)、森高初恵氏(関東支部、元昭和女子大学)、坂本裕子氏(近畿支部、京都華頂大学)、山本悦子氏(近畿支部、元大阪夕陽丘学園短期大学)及び宇高順子氏(中国・四国支部、元愛媛大学)〕の選考過程について説明があり、審議の上、承認された。

(7) 2023年度支部事業報告及び決算案承認の件

佐藤東北・北海道支部長、藤井関東支部長、東海・北陸支部は綾部会長(支部長代理)、久保近畿支部長、杉山中国・四国支部長、秋永九州支部長より、資料11に基づき各支部事業報告、つづいて資料12に基づき決算案について説明があり、審議の上、承認された。

(8) 2024年度支部事業計画及び予算案承認の件

各支部より、資料13に基づき各支部事業計画、つづいて資料14に基づき予算案について提案があり、審議した。

綾部会長より今年度の支部交付金はどのように予算立てをしたら良いのか事務局に確認がなされた。事務局より2024年度予算案は3月31日までに提出をしていただいているので、前年の支給額を参考に予算案に組み入れることでよい、なお、支部交付金の額は6月の理事会で報告するとの説明があった。

以上から、2024年度支部事業計画及び予算案について承認された。

(9) 2024年度代議員総会及び講演会の件

綾部会長より前回の理事会で承認された6月2日(日)にZOOMミーティングで代議員総会を実施することについて説明がなされた後、平尾副会長より、資料15に基づき、代議員総会終了後の講演会の開催について提案があり、審議の上、承認された。

(10) 2024年度大会の件

1) 大会予算(案)

藤井支部長より、資料16に基づき、大会予算について提案があった。今回は日本栄養改善学会と日程が重なるので参加人数は学生を含めて約500名と見積もった予算を立てたことの説明があった。

2) 大会のご案内について

藤井支部長より、資料17に基づき、大会実施案が提案された。大会参加申し込み及び参加費は5月1日(水)12:00～8月16日(金)までに、学術交流会費・弁当代金は7月31日(水)までに決済完了のこと、7月31日までに大会参加登録と決済を完了された方は、事前に要旨集を送付する。それ以降の申し込みについては会場で要旨集を配布する。

3) 若手研究者発表奨励賞の投票期間について

ポスター発表において、ポスター掲示は9月6日10:30～9月7日15:30、討論は9月6日16:20～17:20である。「説明や質問に対する回答は的確でわかりやすいか」といった評価の視点から、大会参加者はポスター発表の様子をみて評価することとし、若手研究者発表奨励賞の投票期間を9月6日17:20～9月7日15:30としたい。

以上1)から3)は審議の上、承認された。

(11) 特別研究「多様な調理法と家庭料理の伝承研究委員会」の件

綾部研究委員会委員長より実験チームは比較的小規模グループで研究している場合が多く、その中のメンバーで若手研究者奨励賞のエントリーを希望している研究者がいるので、その応募を認めていただきたい旨の説明があった。その際の申し込み方法は各支部の研究責任者を通して伝えていただく、またポスターの掲示場所については実行委員会と相談しながら進めていきたいとのことであった。

若手研究者奨励賞にエントリーしたい方は筆頭発表者であること、口頭発表も兼ねることの確認がなされ、審議の上、承認された。

(12) 2025年度大会の件

綾部会長より2025年度大会は東海・北陸支部が担当になっており、東海学園大学名古屋キャンパスを会場とし2025年8月30日(土)、31日(日)に開催、この3月に大会実行委員会を立ち上げ実施に向けて動き始めているとの報告があり、承認された。

【その他】

(1) 次回理事会は2024年6月2日(日)11:15～12:00、オンラインにて新役員により開催する。

(2) 2024年度代議員総会は2024年6月2日(日)10:30～11:00、オンラインにて開催する。旧役員はオブザーバーでご参加いただきたい。

(3) その他

以下の2点が提案され、今後の検討事項とした。

- ① ジャーナル・インパクトファクターが付与される学会誌をめざす
- ② 研究成果のオープンアクセス化の推進について

議事録署名人

会長

綾部 園子

筆頭副会長

新井 映子

監事

飯田 文子

監事

高村 仁知